

第3回 三条大橋デザイン検討会議 摘録

日 時：令和4年6月10日 午後2時～午後4時

場 所：京都市役所本庁舎4階 正庁の間

出席者：委員13名（欠席1名）、報道機関：11社、傍聴者：1名

- 1 開会の辞
- 2 デザイン（案）の説明（事務局）
- 3 デザイン検討経緯の説明（学識委員）
- 4 デザイン（案）についての意見、感想

議長：コンセプトからデザイン（案）まで説明いただきましたので、一人4～5分程度で、この橋を使ってまちの振興に繋げる等どのような話でも結構ですので、御意見、御感想をお願いします。

委員：デザインコンセプトやデザイン（案）など聞かせていただき、京都に合った素晴らしいものができて良かったと思っている。また、高欄についても京都の木材、地産地消で行うことができると聞いて、非常喜ばしく思っている。少し話が変わるが、今回整備する三条大橋の夜間景観は非常に良いと思うが、今、鴨川で青色のネオンサインなどが見られ、そういうものも規制していけないか。他の部署の話かもしれないが、考えていただきたい。

委員：今回、色々と御検討いただき、防護柵にはゴミなどが置かれないように手すりの部分を丸くする工夫もされており、木製高欄も含めて非常にいいものできたと思う。

委員：第1回、2回で、現状維持が良いとの意見もあり、無理に付加価値を付けることが最良なデザインとは限らないと思っていたが、新しいものを作るという今回のデザイン（案）の説明を素晴らしいと思いながら聞かせていただいた。特に舗装の接続、三条通との統一性や東山などの景観などにも配慮され、市民の方が、毎日日常で使われる公共空間を長く使い続けていくうえで、こういった配慮が大切なことだと思った。

委員：三条大橋はあくまでも木製高欄、それ以外のものは考えられないと思っていた。これまでの会議でもそのことは申し上げてきた。主役は木製高欄であるが、色々考えてきた結果、立派な橋が出来つつある。地域社会の誇りになり、後は完成を祈るばかりである。

委員：素晴らしいデザインができたことを本当に嬉しく思う。個人的にも「麻の葉模様」が好きで、それを取り入れて、本当に京都らしい、みやびなというコンセプトにも合っている。また、この橋を巡って、沢山の方が来られ、地域の活性に繋がると思う。

委員：もう少しあっさりとしたデザインのほうがいいのではと思っていたが、華奢な作りに見えて丈夫との説明もあり、麻の葉という模様についても、子供や女性の厄年で身に付けたりと重用されている模様でもあるので、このデザインで良かったと思う。質問だが、今回橋の袴についても直していくのか。非常に傷んでいる。

住んでいるところは、少し離れているが良く使う橋であり、今後の改修に非常に期待している。

事務局：今回の木製高欄の更新に合わせて、柵隠についても全てやり替える計画にしています。

委員：今回デザイン検討会議に参加させていただくことになり、よく使う橋ではあるが自分が会議でどういう意見が言えるのか、疑問を持ちながら参加していた。前回では、小さい子供が飛び出さないように防護柵の隙間が小さい方がいい等を言わせていただいた。今回デザインを聞かせていただき、自分の意見と京都らしさ、みやびなデザイン等が自分の中で繋がりにくかったが、「麻の葉模様」、「市松模様」などの伝統的なデザインを示されている中で、防護柵の隙間も小さく、安全性にも優れたデザインであり、素晴らしいと思った。

市民の方、旅行者の方に親しまれる橋になったら良いと思う。

委員：非常に素晴らしいデザインを示していただき、良いと思う。ちょっとまわりに聞いたところ、水に関する模様もあると言うことを言われる方もいたが、私としては良いと思っている。ちょっと気になっているのは、今ついている木製高欄は芯のないものを使っていると聞いているが、今回は芯のある檜を使うと聞いている。メンテナンスに関して、木材の割れが気になるが、処理は施すことは可能だと聞いている。歩道も特殊なブロックを使うということで、橋の歩道のためブロックが早々に痛むことは考えにくいですが、防護柵に関しては、特注品のため、車両等に当てられた場合にすぐに交換できるものなのか。

また、三条小橋との取り合いはどうなるのか。現在は石の歩道となっているが、橋の木製高欄に合わせるのであれば、ここについても敷き替えるのか。今後の話であると思うが考えていただきたい。デザインとしては、本当に良いものができたと思うので今後が楽しみである。

委員：すごく良いものが出来上がったというのが率直な感想で、参加した当初はどのようなデザインになるのかと思っていたが、京都らしさが残った素敵な橋になって良かった。高欄についても京都産の檜を使うことを聞いて素晴らしいことだと思う。デザインについても自分が好きな模様でもあり、意味も踏まえてデザインされていることが素晴らしい。夜間の景観も好感を持っており、夜も映える橋になって良かった。

橋の改修を機会に、河原町方面や四条の方から人が流れてきて、周辺が賑わうようになる。完成すれば、是非写真を撮って、インスタ等で宣伝したいと思う。

委員：防護柵や照明等、当初の感じより非常に良くなって非常に素晴らしい。これからの広報をどのように行っていくのかをお聞きしたい。当初も言っていたが一体化をどのようにするか。三条河原町の交差点の工事、三条通の無電柱化が進んでおり、今後三条大橋の工事ということになるが、京都市がまとまって広報活動はしていないと思う。学区の方にはそれぞれに報告はあるが、京都市としてまとめて広報活動をしていただきたい。

事務局：今回、素晴らしいデザインをいただいて、我々としても京都市の活性化に繋げていきたいと考えている。橋だけでなくトータルでと言う御意見を伺いましたので、今後しっかり考えていきたい。

事務局：広報というのは、大事な要素であると考えており、後ほどふるさと納税のPR動画も見ていただく予定にしているが、三条大橋に関して言えば、本市の広報課も注目しているところである。我々としても地域の安心、安全等を考慮しながら、関係各所と地域のまちづくりをしっかりと進めたい。

委員：三条大橋の歴史や現在を踏まえ、未来に向けた素敵なデザインが構築され、良かったと思う。

このデザイン会議での検討や皆さんの思いを受けて、三条大橋を核としたまちづくりが一層進むことを期待したい。多くの人の愛着と関わりが得られることで、より素敵な三条大橋に育つと思う。

委員：今回色々関わらせていただき、皆様の御意見を聞きながらそれを形にしていくという非常に貴重な経験をさせていただいたと思っている。先ほどの説明や委員の感想にもあった木材の地産地消について、この地産地消の一つの意味が、三条大橋を作るために京都の森を守り、木を守り、それをいかに循環するか。循環型システムの中で三条大橋が生まれ変わるということ、第1回の時に三条大橋の歴史を紹介した中で、昭和10年に三条大橋が流された話をさせていただいた。1つの原因として昭和9年の室戸台風の時に山が崩れ、木が倒れ、山の保水の能力が低下しているところに大雨があり、水が大量に河に流れ、三条大橋が流された。今回、木材の地産地消が山の保水機能を保ち、川に流れる水を少なくし、それが橋を守り、市民の命を守ることに繋がる。

デザインとしては、単に伝統だけでなく先進的な技術を採用しているところが、非常に嬉しく思う。古ければ良いというものではなく、そこに新しいものを持ってくる。うまくデザインとしてまとめられていてところが京都らしく感じた。今回、参加された皆さんに是非お願いしたいのは、ここに至るまでの話を周りの方に伝えていただくことが大事だと思う。橋に来れば橋に関わる物語を体験できるということで、より活性化にも繋がると思う。

皆様に愛される三条大橋として是非伝えていっていただきたいと思う。

5 デザイン（案）への最終コメント（議長）

議長：ありきたりの既製品を並べるだけのデザインではなく、デザインコンセプトを満足するような立派な橋が出来つつある。三条大橋は東海道の起終点であり、京都のみやこに入る玄関でお迎えするという雰囲気的大事だと思っており、それに相応しいデザインができたと思う。

舗装については、細かいデザインで、大きな市松模様は洋式な感じがするが、細かい市松模様は和をやさしく感じさせ、また、麻の葉模様は、京都の玄関から奥座敷に入っていただくような雰囲気を出してくれるのではと大いに期待をしている。ここにしか無いデザインの橋ができるということが素晴らしいと思う。これをどう使っていくか、地元にも積極的に協力してもらいたい。地元と京都市が協力し合って盛り上げていくということが非常に大事だと思う。この橋を大切に守り育てていただき、まちの発展に繋げていただいくことに期待したい。

6 三条大橋PR動画等の鑑賞

7 閉会

以上